Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
HP：http://hw001.gate01.com/zonesystem/
発行日：2009.07
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.43

CONTENTS

- 袋蛇腹の制作　私の場合
- 日光周辺撮影会報告
- 新潟撮影会報告
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

袋蛇腹の制作　私の場合

中島秀雄

ワイドレンズのための袋蛇腹

建物や切り立つ岩山をワイドレンズで撮影する場合、大きなアオリ操作が必要になる。私のカメラには、皮製の柔らかな標準蛇腹が付いていて多少無理なアオリが使えた。しかし、ワイドレンズをつけると蛇腹は引き寄せられ固まり、大きなアオリ操作をすれば蛇腹に負担がかかるだけではなく、蛇腹の反作用を防ぐためにきつく締めるネジや支柱にもストレスがかかってくる。最近、蛇腹の劣化が気になり、袋蛇腹が欲しいと思っていた。オプションとして袋蛇腹は用意されているが、安いものではない。

袋蛇腹の制作

蛇腹に使う材料は、光を通さず、硬軟に適当で、内面反射が少なくフレームとの接着力も必要だ。実は、その見極めが難しく、蛇腹制作など今まで考えたこともなかった。東急ハンズに立ち寄ったとき、参考までに生地コーナーを見てまわった。適当なものを見つけ店員に訪ねると、遮光性は分からないという返事だった。そこで、サンプルをもらい、店内の様々な照明にかざし、外の光にも問題ないと判断して再び生地コーナーに戻った。ところが別の店員に変っていて、絶対大丈夫ですという一言をもらった。

蛇腹制作といってもデザインは、既成品のコピーです。手元にある４×５袋蛇腹は、現在使っている木製カメラとの互換性はなく、丈夫に出来ているだけに重く、内側はゾーンⅣくらいのグレーで内面反射が気になり一度も使ったことはない。しかし、デザインがユニークで、折りたたむとコンパクトな形になり気に入っていた。このデザインを真似ることからスタートした。

試作

まず、手持ちの袋蛇腹の寸法を測り、それを新聞紙に書き移し線に沿って切り取る。次に、糊で貼り合わせて組み立て、自分で作れそうな感じをつかむ。そして、カメラボディーにサイズが適当か、開口部は必要なサイズになっているか検討する。結果としてピントグラスにつながる部分が少し大きすぎ、その部分だけサイズ変更した。
材質が皮であろうと布であろうと寸法を測って切り取り、貼り合わせるところまで難しいことは何もない。

型紙を作る

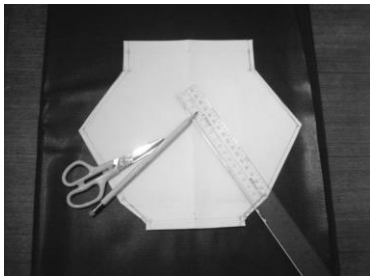
サイズを書き込み型紙を作り、蛇腹の材料に合わせて線を引く。このとき縫いしろを４ミリほど取る。線に沿ってカットして、同じものを４枚作る。材料の内側を外にして、縫いしろに接着剤を塗り、貼り合わせてクリップで留める。接着剤が完全に乾かない前にミシン縫いすると針の穴が接着剤で埋まる。乾いたら外側になっている生地を元の内側に戻し、縫い目から光線漏れがないか確認する。

フレームの組み立て

フレームは少し難しい。カメラバックにうまく合わないと装填できないからだ。カメラボディーの内側とバックのはめ込みサイズを測り、材料に線を引きカットする。材質は加工しやすく堅牢性を考えて選択した。厚みも重要で、一枚物では加工は難しく二枚重ねによってサイズ合致するものを使った。合計の厚みが 7mm の場合、一枚物で 7mm 厚のものはない。5mm と 2mm、4mm と 3mm を接着することで、凹みもうまく加工できる。

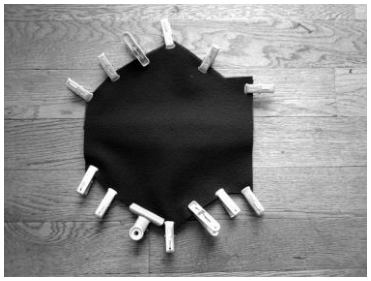
1) オリジナル蛇腹を計測し、新聞紙等で作って自分で作れるのか確認する。

2) 型紙を作る。このとき糊しろは、4mmとした。



3) 材料に型紙をあて、線を引く。

4) はさみ、カッターナイフで切り抜き4枚作る。

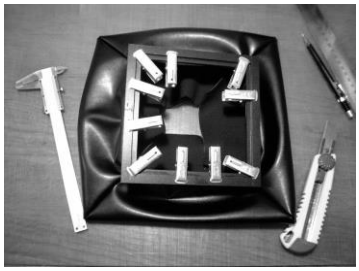


5) 内側を外にして張り合わせ、クリップで留める。

6) 接着後ミシンで縫い合わせる。

7) ひっくり返し、張り合わせ部分から光漏れがないか確認する。

8) 右上のピントグラス部分に合わせ、フレームを作る。



9) フレームと蛇腹を糊付けする。
ここが一番難しく、数回やり直した。フレームのサイズと蛇腹の口径が多少合わなくても、光漏れがないように完全に貼り合わせなくてはいけない。また、歪みがないようにバランスも必要だ。フレームいっぱいに貼ってしまうとカメラに装填できないので、標準蛇腹の仕組みをよく観察するとよい。

10) 標準蛇腹のライズ゛限界位置。125 ミリのレンズをつけてライズしたが、蛇腹は嫌がっている。

11) 新しい蛇腹を取り付け、アオリの量を増やした。レンズのイメージサークルいっぱいまで可能で、こうするとレンズの能力を生かすことができる。

12)正面から見たところ。

外に持ち出し、実際の撮影で光線漏れがないか確認する必要がある。
私は、カットフォルダーを装填し、引き蓋を引いて 10 分ほどそのまま光にさらした。現像して、光線カブリがなければ問題ない。

毎回、ワイドレンズによる撮影ストレスが解消できました。

日光周辺撮影会報告

荒井崇

・日時：２００９年２月２１日（土）～２２日（日）
・場所：日光、大谷
・参加者：中島代表、宮岡、越後、倉又、酒巻、加藤、北野、荒井、橘田、石引(遼)（特別参加）

今年の冬の撮影会は日光周辺。

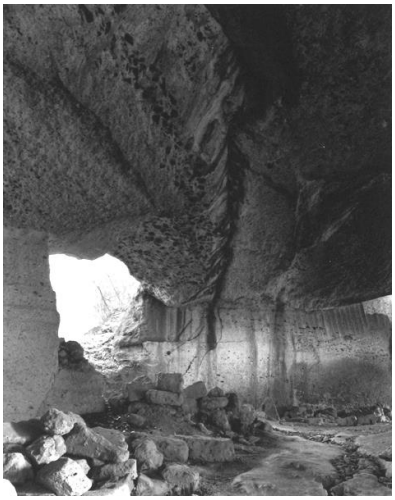
今回は、撮影地地元（さくら市）在住の加藤会員と中島代表が、事前にロケハンを行っていた。おかげで最適な撮影地を効率良く移動することができ、あまり知られてない数々の「穴場」を案内してもらった。

【２月２１日（土)】

朝９：００JR 宇都宮駅改札口に集合。
加藤さんの作った「ゾーンシステム」の貼り紙を目印に全員が集まった。
天気は快晴。撮影日和である。

車４台（中島先生／宮岡さん／橘田さん／加藤さん）に分乗し、第１の目的地「大谷石切り場」へ向った。

大谷石は、建物や塀などに使う装飾用の石であるが、最近需要が落ち込み、採掘量は激減しているという。到着後、現役の石切り場で撮影開始。まず採掘穴の非日常的な光景に驚嘆。切り出し跡の奇妙な外観は、トルコのカッパドキアを彷彿させる。なお、有料観光施設である地下採掘場跡に関しては、あまりにも暗いため撮影を断念。見学のみとした。ちなみにこの観光施設は、教会やイベント（コンサート）にも使われているというから驚く。昨年の紅白歌合戦では、アイルランドのシンガー「エンヤ」がこの場所で歌っていた。



午後１３：００頃、日光へ到着。時間が無いのでコンビニで昼食を済ませ、裏見の滝へ。ところが裏見の滝へ通じる道路が工事中で入れないことが判明。滝手前の清流で撮影することになった。美しい流れと小さな滝のある閑静な清流。思いのほか良い被写体に恵まれた。

清流撮影後、車で１０分、国道沿いにある教会に到着。ここは、ロケハンのとき加藤さんと中島代表が事前に撮影許可を取っておいた教会。日光真光教会という古い石造りの建物が特徴。石造りの建物は大正時代に作られたもので、当時の宣教師・建築家 J.M.ガーディナーの設計である。近くを流れる小さな川の石を採石して建立したとのこと。夕日に映えるグレーの石肌は、なんとも言えない美しさを醸し出し、撮影にも気合が入った。今回は牧

師さんの計らいで貸切。礼拝堂の中まで撮影することが出来た。

日が落ちて本日の宿へ向かう。宿の名は梅屋敷旅館という。東照宮近くにある風情のある閑静な温泉宿。この辺りで温泉宿は珍しい。しかもリーズナブルな料金。加藤さんが探してくれた宿である。撮影の疲れを十分癒すことができたに違いない。

【２月２２日（日)】

朝、まず宿の周辺を撮影。近くを流れる川と山々の静寂な風景でウォーミングアップ。本日も快晴。順調な滑り出しだ。

その後、いろは坂を上り中禅寺湖へ。あまり知られてないが、中禅寺湖湖畔に趣のある中国人別荘が佇んでいる。加藤さんと中島代表はこの別荘に目を付けた。ロケハンで事前に交渉し、撮影許可を取り付けていた。別荘周辺は美しい中禅寺湖湖畔。岸辺に積る雪の凹凸を手前に、湖と遠景の山が撮影テーマとなった。湖畔の風景も含めて大変充実した撮影が行われた。

最後は定番の、戦場ヶ原周辺撮影。

今年は例年より雪が少なく、道にはほとんど雪が積もって無かったが、奥に入り込むと小川と雪の美しいコントラストが見られる。真白な雪の曲面と曲線、水の流れと流木が撮影意欲を高める。各人、大変すばらしい作品を撮影することができたようである。戦場ヶ原には不可思議な形の木なども点在し、相変わらず被写体には事欠かない。

という訳で、各人ついつい時間を忘れて撮影に没頭。予定時間を過ぎてしまった。加藤さんが迎えに来てようやく引き上げることに。これで今回の撮影を終えた。

日光は、狭いエリアの中に多くの魅力的な被写体がひしめく非常に撮影しやすい撮影地だ。加藤さんの話では、まだまだ他にも撮影ポイントがあり、場合によっては足尾銅山まで足を伸ばすという手もあるという。良い宿泊施設も周辺に点在するとのこと。日光は、研究会としてこれで２回目であるが、再度トライしたい撮影地である。

新潟撮影会報告

荒井崇

・日時：２００９年４月１８日（土）～１９日（日）
・場所：新潟（柏崎、松代周辺）
・参加者：中島代表、宮岡、倉又、酒巻、荒井、畑、浜野、北野、松本、藤田、宮岡、鈴木（武）

新潟は、研究会撮影会として始めての撮影地。柏崎市在住の会員藤田さんの協力で実現できました。今回は撮影スポットが非常に多いにもかかわらず、わずか２日間で撮影を行わねばならない。

【４月１８日（土）】

朝９：３０ＪＲ長岡駅に集合。天気は快晴。各メンバーやる気満々である。
今回は、藤田さんに車を準備していただいき、他に、新潟地元写真仲間である水澤さん・川井さんの車、合計３台である。とうい訳で地元の方３人の運転による移動となった。

早速車３台に分乗し、長岡ＩＣから高速に乗り一路柏崎へ。米山ＩＣで下車。日本海撮影に向かう。柏崎周辺は２回目の中越地震被災地。海岸沿

今回ご協力いただいた水澤さん（中央）・井川さん（右端）そして藤田さん（左端）

いの道路の中には、崩れたままの道路や倒壊したままの家屋が点在し、震災被害の傷がまだ残っているのが印象的だった。

まずは上輪集落という海沿いの集落を上から撮影。ほとんどの家が黒い瓦屋根の造り。印象的な集落である。筆者はイエローフィルターで撮影したが、プリントを見ると屋根の黒が若干浮いてしまい、黒の締りが悪いことに気付いた。中島代表のアドバイスでは、快晴のため光線がきつく紫外線も強かったため、やや霞がかかったようになり黒が浮いてしまったのが原因という。オレンジフィルターを使えば問題は解決できたとのこと。

集落撮影後、すぐ近くにある「聖が鼻」という侵食された奇妙な形の半島を撮影。時間が無かったので近づいての撮影は断念。遠景として撮影を行った。

ここで藤田さんの差し入れ「笹寿司」をご馳走になった。奥様の手作りとのこと。くるみや山菜の入った寿司を笹に載せてある。上杉謙信公が戦の際に持って行った保存食とのこと。大変な美味であった。

笹寿司
（藤田さんの差し入れ）

海岸の撮影を終えて内陸へ向かう。新潟の里山風景を車で走ること４０分くらい。古い小学校の校舎に着いた。何と本日の昼食はこの小学校。旧別俣小学校である。廃校になった校舎を利用した食堂。藤田さんが予約しておいてくれた、とっておきのレストランである。中に入ると１つの教室が食堂になっており、豪華な山菜料理、古代米のおにぎり、そばなどが、所狭ましと並ぶ。そして何と、今回は私たちのために貸しきりであるという。食べても食べても食べきれない量の料理。採りたての素材を使っているのでどれを食べても絶品。新潟の山菜料理を十二分に堪能することができた。

昼食後、校舎の撮影に取り掛かった。古い板貼りの外観、教室に展示してあるかつての懐かしさと美しさの混じり合う黒板、三角定規、石膏像、大時計、そして竹籠、スキ、クワ等は魅力的な撮影素材であった。

更に車で内陸へ、「茅葺きの里」（柏崎市高柳町漆島）に到着。本来は雪のある時期がすばらしいという。新潟豪雪地帯の独特な造りの民家が点在。古い板がむき出しになっている家の外観や茅葺き屋根。その味わい深い質感は、何か心ときめくものがある。短い時間ではあったが、魅力的な被写体に出会うことが出来た。

「茅葺きの里」を後にしてしばらく走ると、少しづつ雄大な棚田の風景が見え始める。開けた棚田の風景を見つけ、車を止める。夕方の光に映えた棚田を撮影し、本日の撮影を終えた。

本日の宿は、松代駅（ほくほく線）から車で５分くらいの場所にある「雲海」という温泉宿。この宿は通常の部屋の他にコテージも完備。今回はコテージを借り切って宿泊した。（ただし女性陣のみ通常の部屋へ宿泊）

まずは温泉を堪能。この温泉からは、朝雲海が見えることもあるという。

夕食は、藤田さんの計らいで仕出し弁当やつまみによる宴会となった。

ちなみにこの「雲海」という温泉宿。平日に限り「フォトプラン」という特別料金があり、何と一泊二食付 8500 円という格安料金。(普段平日１泊２食付 13000 円前後) この料金はコテージでなく通常の部屋なので、個人で撮影に来る際は便利である。

【４月１９日（日)】

早朝５：３０宿を出発。目指すは「星峠」。棚田撮影スポットのメッカである。到着すると、何も無い里山なのにトイレが完備された駐車場がある。駐車場には車がぎっしり。カメラマンの三脚が並ぶ。

遠景には日の出の太陽と霧が出ており、幻想的な棚田の風景が広がる。噂には聞いていたが、胸が透くような光景に圧倒されてしまった。

早速カメラをセッティングして撮影。十分時間があったので、じっくり撮影を行うことが出来た。

しかしながら雄大な風景である故に、フレーミングがまたむずかしい。水を張った田が連なり、傾斜面に変形の鏡を何枚も並べたような光景。この反射面の切り取り方が我々のテーマでもある。そしてこの逆光。ゾーンの設定も悩む。時間はあったが、結局「うまく撮れたかどうか非常に不安。」というのが実感であった。

陽が昇りきったところで撮影終了。宿に戻る途中で浜野さんを松代駅に送った。

朝食後、宿をチェックアウト。次のスポットは松之山の「美人林」。有名な美しいブナ林で、ここもカメラマンが多数訪れるスポットだ。何とも言えないスレンダーな木立が延々と続き、林中央にある池にその美しい姿を映す。多少光線が強かったが、やはりそこはみなさん凄腕の人たちである。後に例会で作品を見せていただいたが、それなりの作品にまとめあげていた。

ちなみに私は撮影時に断念。早めに切り上げて、林に隣接する「森の学校キョロロ」という建物を撮影した。

ところで「森の学校キョロロ」とは何か。ここで簡単に解説しておく。

この地域では、2000 年夏から 3 年おきに、「大地の芸術際　越後妻有トリエンナーレ」というアートフェスティバルが行われている。越後妻有とは、十日町市周辺近隣市町村一帯を指す地域のことで、ほとんどが里山風景の地域だ。この地域一帯にアート作品やアート施設を点在させ、同時に多数のイベントやパフォーマンスが行われる。筆者は 2003 年夏、このアートフェスティバルを見に訪れた。作品の数が多すぎてとても見切れなかったが、大変感動し、充実した時間を過ごせた記憶

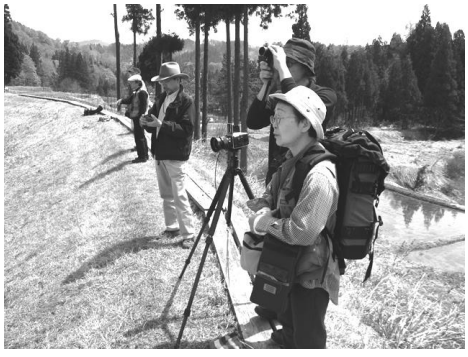
がある。（当時はこのあたりにすばらしい棚田があることすら知らず、棚田は一切撮影しなかった。）

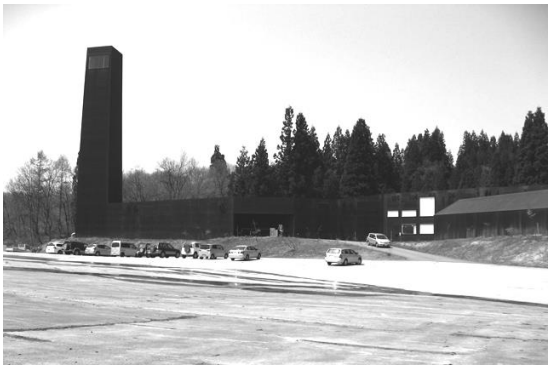
また、2003 年フェスティバル用図録表紙とポスターが、森山大道の写真であったことも鮮烈な印象として私の中に残っている。

そしてその 2003 年夏のアートフェスティバルで出品されたのが、この「森の学校キョロロ」という建物（手塚貴晴・由比氏作品）である。錆びた鉄で覆われた潜水艦のような奇妙な建物で、建物の端に、高さ 34 メートルの潜望鏡のような高い展望台が設置されている。（キョロロとは、この展望台から命名されたものと思われる）普段は中で、昆虫、植物など自然に関する展示が行われており、自然体験工房などの施設も完備されている。

その他、当時印象に残った作品としては、以下のとおりである。

・草間彌生[日本]の「花咲ける妻有」（水玉の描かれた大輪の花のオブジェ。松代駅近く）。





・王功新[中国]の「米雪」（米と雪をテーマにした白米と映像の組み合わせ。十日町市街地民家内）。

・ジェームス・タレル[アメリカ]の「光の館」（光の美しさをテーマにしたすばらしい和風建築の作品。川西地区。）こちらは何と貸切で宿泊もできる。次回、研究会でこの施設を利用するのも良いかもしれない。

「美人林」撮影後、「森の学校キョロロ」の駐車場にあった大きな雪の塊を撮影。恐らく駐車場の雪を除雪した際にできたものと思われるが、とにかく異様な光景に見える。中島代表の提案で、これをオブジェと見立てて撮影することにした。奇妙な形の建物「森の学校キョロロ」と雪の塊。被写体としては大変魅力的であったが、いかんせん駐車している車が邪魔になる。さすがに人の車は動かせない。筆者はフレーミングにひとしきり苦労した。

撮影後、昨日の宴会や昼食で残った食材を駐車場に広げて食事。すがすがしい外での昼食で少し疲れを癒す。

この近くには、「松之山温泉」という小さな温泉街がある。冬雪が深い時期に、「むこ投げ」という奇祭が行われるので有名だ。「むこ投げ」とは、前年に結婚した初婿を、薬師堂境内から５ｍ

ほど下の雪の上に投げ落とす行事。今では、結婚の祝福と夫婦の絆をかたくなるよう願い行われているが、由来は、略奪結婚の名残とも、村の娘をとられた腹いせが形を変え残ったものとも言われている。前述したアートフェスティバルの際、筆者が宿泊したのがこの温泉である。日本でも有数の泉質を誇るだけあり、大変すばらしい湯であった。

私たちの次の撮影スポットは、この「松之山温泉」近くを流れる「越道川」ほとり。里山を流れる清流には、川の流れ、川辺に立つ樹木等、魅力的な被写体が満載。十分に時間を取って撮影。参加メンバーは、連日の撮影による疲れも見せず、熱心に被写体に向かっていた。中島代表が今回、最も推奨していたスポットである。中島代表曰く「雪が積る冬は最高の風景になるだろう。」とのこと。機会があったら、ぜひトライしてみていただきたい。

本日の撮影はこれにて終了。本来であれば、ロケハンで確認しておいた奇妙な形の納屋とそれ

が映り込む水田を撮影の予定だったが、水田に水が無いため断念。帰途に着く。途中道の駅で休憩し、浦佐駅に到着。新幹線で東京方面へ帰宅。

今回車での移動に関しては、藤田さん・水澤さん・川井さんに大変お世話になりました。しかも新潟の旅を楽しみながら感動もいただいた。前回撮影会の加藤さんに続き、地方会員の献身的な活動が、研究会を大いに盛り上げてくれていると感じた次第である。

ゾーンシステム研究会定例会日誌

2009年3月 14 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、松本、北野、荒井、石井、鈴木匡、越後、畑

・見学：石引遼、桑原

・作品持参者：越後、松本、北野、畑、鈴木匡、石引遼

●平木先生逝去の件

アンセル・アダムスについての造詣は随一の先生であった。中島先生より弔電を打電。お別れの会は未定。

●日光撮影会（2/21・22）の反省、アドバイス

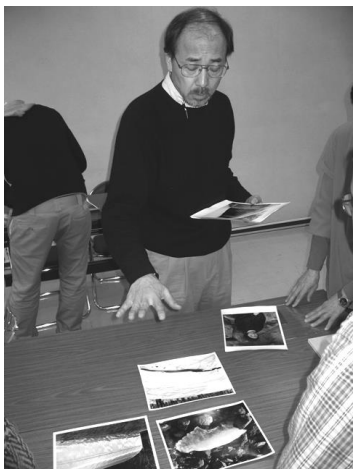
・事前にロケハンを行い、実地の撮影指導がうまく行えた。

・多くの人のカメラ位置が低い。まず目の高さで眺めてから撮影意図によって調整する。

・ピントグラスの端までよく観察する。余計なものが入っていることが多い。

・ピントグラスに暗いものが多い。フレネルをつけるなど明るくできるカメラもある。

・冠布が小さく、光の漏れるものが多い。最低でも 1 メートル四方は必要。



・カメラをリジッドにすること。アオリを使ってから、戻さないで次の撮影をしている？

・撮影が済んでから、もう一度ピントを確認すること。

・レリーズは長いものを使わないとぶれやすい。1メートル位のものがよい。

●新潟撮影会（次回）

4月 18・19 日を第一希望として藤田氏と調整する。棚田、周辺の納屋もおもしろい。

2009年 4 月11 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、荒井、石井、越後、岡崎、北野、橘田、古谷津、小菅、酒巻、畑、松本、宇野、倉又、浜野、圓子、宮岡

・作品持参者：荒井、石井、越後、岡崎、北野※、橘田、古谷津、小菅、酒巻、畑、松本

●新潟撮影会の確認(4/18,4/19)

1日目は日本海を撮影する。各自「海」のイメージを作っておくこと。

2日目は棚田や点在する納屋などを撮影予定。

荷物はなるべく少なくしたい。

●写真展の準備

印画紙はレンブラントを使用すること。

展示サイズは検討中。 例会には 8×10 ワークプリントで提出する。

原則として一人二点 （テーマ「海」と、自由） とする。

●日本カメラ誌への掲載予定について

11 月号（10 月 20 日発売）の「クラブ紙上展」に研究会を掲載してもらえる可能性がある。

各自の作品と集合写真、紹介の文章などを早急に送る。

・掲載作品は昨年の写真展作品をスキャンし、キャビネサイズにプリントした。

・集合写真は暫定で過去の写真を送るが、来月から毎回例会にて撮影し、良い集合写真が出来たら差し替える。

●平木先生お別れの会

・日時：平成 21 年 5 月 10 日（日）10:00~11:30

・場所：アルカディア市ヶ谷 （私学会館）5 階「穂高」

・ＨＰ：http://www.arcadia-jp.org/access.htm

中島先生、他が参加予定。 研究会より「お花代」を支出する。

●その他

５月例会の日程変更 ・・・ 5 月 16 日（土） オープンスペース

2009年 5 月 16 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、荒井、石井、橘田、松本、畑（幹事会のみ)、浜野、宇野、圓子

・作品持参者：荒井、石井、畑、浜野

●新潟撮影会は、藤田さんのおかげで大成功。

● 5/10（日）平木先生のお別れ会が開催された。研究会からは、4 人が参加。(中島代表、倉又、佐久間、松本)

●本日撮影予定だった日本カメラ誌研究会紹介記事用の集合写真は、人数不足のため中止。

●来月(6/9-27)、ギャラリー「ときの忘れ物」において「銀塩写真の魅力」を開催。アンセル・アダムス等著名作家展示の中で、中島代表の作品も数点展示される。(詳細は会報 no.42 参照のこと)

●来月例会（6/13）終了後、ギャラリー「ときの忘れ物」へ移動し、上記「銀塩写真の魅力」見学会を行う。その際、日本カメラ誌研究会紹介記事用の集合写真も撮影するので、奮って参加して欲

しい。

●ゾーンシステムワークショップ（ヒットオン主催）進行中。参加人数８名。デザイナー、建築家、ギャラリーオーナーなどさまざまな職業の方が参加。中島代表の作品展も同一場所（ヒットオン内アートスペースモーター）にて開催中。(詳細は会報 no.42 参照のこと)

本日の例会は早めに終了し、中島代表の作品展見学を行った。(参加者数名)

●ポートレート撮影会・静物撮影会開催を検討中。（日程、場所未定）来年(2010 年)写真展に向けて、

●ポートフォリオ制作の活動を開始する。

参加希望者は、参加候補作品を記載して事務局（畑氏）へ連絡のこと。

（7 月例会（7/11）くらいまで）

・参加候補作品：過去写真展出品作品から選ぶこと。(出品年、題名を記載）ただし、過去に写真展へ参加経験の無い方は新作でも可。

・参加候補作品は 3 点記載のこと。(最終的には１人１点に絞る。希望優先順位があれば記載しても良い。)

・参加費用：15000 円前後で検討中。

（参加者には無償で１セット提供する予定）

・制作数：未定 (30~50 セット?)

・日程：来年(2010 年)夏、完成予定

2009年6月 13 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者:中島代表、酒巻、石井、古谷津、松本、岡崎、橘田、小菅、岸、北野、畑、圓子、荒井、倉又、長谷川、鈴木（武）

・作品持参者:酒巻、石井、古谷津、松本、岡崎、橘田、小菅、岸、北野、畑

・「ときの忘れもの」のみ参加:宇野、石川

●７月例会には、今年の例会に持参したプリントも再度持参していただきたい。
その中から、広報用の作品も数点選定する。
選定された作品は、7 月末までにキャビネで各 20 枚プリントし、富士フォトサロンに提出する。
(RC ペーパー可。富士フイルムの印画紙必須。)
●8 月例会（8/8）は、室内で静物撮影会も行う。
会場は会議室を引き続き使用。(21 時 45 分まで)
詳細は計画中。
各自が雑草などを持ち寄り、クラシックなイメージに仕上げるなど、いくつかのテーマを決めたい。
●ポートフォリオ参加者を募集中。希望する人は候補作を 3 点、事務局まで連絡願う。
●ヒットオンでのワークショップが進行中。
終了展を行う予定だが、8 月下旬には沖縄撮影会の計画あり。研究会の会員も参加してはどうか。
●作品創りのヒント
・撮影は昼間に限らない

・写真集を眺めてイメージを膨らませる。
・演出する、アレンジするなど、創作的な作品にもチャレンジしてみる。
●例会後、外苑前のギャラリー「ときの忘れもの」に移動、「銀塩写真の魅力～Gelatin Silver YES!」を鑑賞した。
●例会終了後、例会会場、及びギャラリー「ときの忘れもの」2 箇所で集合写真（日本カメラ掲載用）撮影を行った。

2009年 7 月 11 日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者:中島代表、酒巻、石井、古谷津、松本、橘田、岸、北野、畑、宇野、荒井、倉又、長谷川、越後、宮岡、浜野

・作品持参者:酒巻、石井、古谷津、松本、橘田、岸、北野、畑、荒井、長谷川、越後、宮岡、浜野

●広報用候補作品の選定
本日、広報用候補作品が決定された。
７月末までに 5×7 で 20 枚プリントし、中島代表宛てに郵送すること。
（候補作者：長谷川、岸、浜野、橘田、古谷津）
●DM 用作品は８月例会で決める。
●テーマである「海」の写真が少ないため、これからも作品創りを進めていただく。
（貝殻や魚などを題材に。実際に海まで行く必要はない。）
●写真展情報
八木祥光写真展「写真の聖地に立つ」アンセル・アダムスの作品と同じ位置から撮影したもの。
デジタルプリント。8 月 27 日からシリウスにて。
●例会終了後、例会会場で集合写真（日本カメラ掲載用）撮影を行った。

Information

【トピックス】

[平木収先生のお別れ会]

2009年5月10日(日)、アルカディア市ヶ谷（私学会館）にて平木先生のお別れ会が開催されました。

研究会からは、4 人が参加。（中島代表、倉又、佐久間、松本）平木先生に関する思い出や経歴をまとめた小冊子も配布され、その業績が称えられました。

今年の研究会写真展においては、平木先生のことばをいただくことができなくなり、研究会にとっても大変残念な出来事でした。

【買います】

荒井崇

・EL ニッコール 150mmF5.6A　20000 円前後

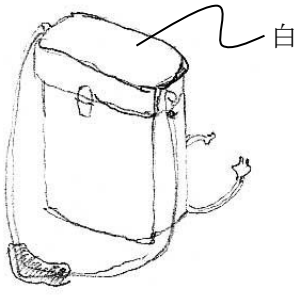
注 1)　引き伸ばしレンズです。カビ不可。

注 2)　必ず型番に A の付いた最新のもの。

【売ります】

中島秀雄

- **ZONEVI 4x5 コールドライト VC ヘッド（ベセラー用）　90000 円**
- **ZONEVI 4x5 コールドライトヘッド（ZONEVI用）　28000 円**
- **富士 A450（4x5 引き伸ばし機)(新品同様）　120000 円**
- **ZONEVI 8x10 フィルムホルダー ロケーションケース（7 枚収納）　10000 円**



Information

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

[以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。]

１．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリントでお願いします。

２．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。

・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの、(スキャナーでパソコンへ入力します。)
・パソコンの電子メール
・ウィンドウズの Word2000-2003
・text ファイル
(ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。)

ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。

３．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

［編集部］荒井　崇